

## 第7回 積雪寒冷地における道路舗装の長寿命化と

### 予防保全に関する検討委員会

#### 議事概要

#### ■ 第7回検討会：令和5年12月25日（月）

##### 【議 題】

- ・今年度に試験施工を実施した技術の状況報告について
- ・新たな舗装技術の取り組みについて

##### 【議事概要】

- 事務局及び技術開発者より今年度に試験施工を実施した技術の状況報告を行い、質疑応答を行った。また、新たな舗装技術の取り組みについて委員より提案があり、質疑応答を行った。議事内容は以下の通りである。

##### ◇今年度の試験施工を実施した技術の状況報告について

- ・ コンクリート舗装の路盤部に断熱材を入れても、目地が飛ぶなどの弱点があれば、そこから水が入ることは問題である。積雪寒冷地特有の損傷であるのかも含めて、今後も継続して検証することが重要である。
- ・ コンクリート舗装の目地については、温度によりどの程度開くのかなどのデータを得ることで、その条件を満たすような材料の開発につなげることが重要である。
- ・ コンクリート舗装内の鉄筋が弱点となり、早期破損となるのかを情報収集し検証を行うことが重要である。
- ・ 耐久性の高いアスファルト舗装技術については、凍上により常にひび割れで困っている路線で試験施工を実施することが重要である。また、できるだけ同じような条件で比較検討できるように現場を選定することが望ましい。
- ・ 技術応募いただいたアスファルト舗装技術について、「高弾性」という言葉の定義が不明確で各社バラついているため、低温でも追従できるバインダーについて、統一した名称とすべく意見照会等

を実施していただきたい。

◇新たな舗装技術の取り組みについて

- 特別なプラントを必要とせず、簡単に行える技術であるため、来年度以降、北海道の公道で試験施工を実施するのが望ましい。

以上